

案内：フィールド実習「中国語による入門演習」

秋学期からフィールド実習科目として、「中国語による入門演習」が始まります。

文化構想学部、文学部で週4コマ、半年程度中国語を学習した学生が対象の科目です。

この科目は、隔週1回の準備ゼミ（月曜6限）と、来年3月に実施される上海大学での9日間の研修から成り立っています。準備ゼミと現地研修に参加し、その報告書を提出して認められれば、次の春学期に2単位が付与されます。毎年登録単位数以外に受講できます。

来年3月の上海大学での研修では、次のような実習を行います。

① 中国語コミュニケーションの授業（午前中2コマ、午後1コマ）

上海大学の先生が中国語でコミュニケーションの授業を受講します。上海大学の学生がインストラクターとして参加してくれます。授業を受けながら、先生や中国の学生と中国語でコミュニケーションを取っていくことが目標です。

② フィールド調査（放課後）

上海大学の学生および、一緒に「中国語による専門演習」に参加している先輩たちと協力して、大学の周辺や上海市内で、テーマを決めてフィールド調査を行っていただきます。

これまでの研修で行われた調査には、次のようなテーマがありました。

1. 中国の学生生活についてのインタビュー
2. 上海の街角での物価調査
3. 上海の芸術村の調査
4. 上海の交通機関の調査
5. 上海の街並みの調査（旧租界、旧市街、新興エリアのちがいなど）

③ フィールド調査の結果は、報告会を開き、研修に参加した日本と中国の学生の前で発表していただきます。

④ 報告会の後に、日本の学生の主催で、中国の学生との懇親パーティーを開きます。進行や企画は、日本の学生に担当していただきます。

⑤ 1日の自由行動および、1日の小旅行または観光を行います。これまでの学習の成果を発揮して、コミュニケーションを実践していただきます。

（詳細は、添付の一昨年の日程表をご覧ください。今年もこの日程に準じて行います。）

研修に先立つ隔週1回の準備ゼミでは、中国語のリスニングやコミュニケーションの訓練を行って、研修の内容に対応できる中国語の力を養っていきます。また、上海についての下調べや、プレゼンテーションの練習も行います。

フィールド実習科目の目的は次のような点にあります。外国語を学ぶ際に、美しい発音や正確な文法などの力を養うことは重要ですが、それ以上に、自分が持っている力でなんとか相手とコミュニケーションを取り、意志を疎通させることが大切です。きれいな外国語を操れても、交渉や会議に失敗しては意味がありません。

また、良質なコミュニケーションを実現するためには、中国理解も深めておく必要があります。流ちょうな日本語を使う外国の人が万葉も源氏も知らなければ、わたしたちは疑念を抱くのではないのでしょうか。

この科目は、単なる語学力の向上だけでなく、そうしたことも含めた質の高い中国語コミュニケーション能力を養成することを目標にしています。

中国語で上手く表現出来ないことがあれば、ボディランゲージや筆談、英語なども交えて、現地の人たちと何とか意思の疎通を図ってみてください。さまざまな交流を通じて、みなさんの中国語運用能力は驚くほど向上するはずです。そして何より、研修をとおして中国の同世代の学生との友情が育まれるはずです。それはみなさんにとって、かけがえのない財産になると信じます。

なお、今年度の授業は基本的に対面で行いますが、希望があればハイフレックスで行います。また、コロナ禍の状況によってはリモートで行うこともあります。

万一、コロナ禍のため、上海での現地研修が行えない場合は、リモートによる授業や交流で代替することを考えています。

参加を希望される学生は、9月27日（月）6限に、千野研究室へおいでください。

意欲のある学生がたくさん参加してくださることを期待しています。

（参加希望で月曜6限の都合が悪い方は、遠慮なく千野にご相談ください。考慮します。）

シラバスは、学部のHPから、在学生の方へ>フィールド実習>2021年度プログラム一覧の順に入れば、ご覧いただけます。

問い合わせは、下記までお願いします。

千野研究室：39号館4階2413室、t-senno@waseda.jp

上海研修の費用は例年15～16万円です。（今年はコロナ禍のため、若干の変動があるかもしれませんが）。学生一人あたり2万円の補助を毎年申請しています。万一現地に行けず、リモートでの実施になった場合は、授業料および諸費用のみの負担となります。1～2万円の負担になると思われます。

フィールド実習担当教員 千野拓政